福知山市自治基本条例推進委員会（令和5年度第3回）概要報告

〔日　時〕令和5年12月19日（火）9：30～11：30
〔場　所〕社会福祉協議会3階 33・34 号室
〔出席者〕委員…15 人、事務局…8人、傍聴者…0 人

■内容
1　開会あいさつ

2　福知山市あいさつ

3　議題
（1）施策レビュー実施結果を踏まえた対応方針について
【資料1】により説明

（2）部会における進捗確認（中間発表）
各グループから自治基本条例の推進及び、21 の提案に関する取組の方向性の中間発表を行った。【資料2】により説明

1 班
【提案⑦】福知山市の自然やコミュニティの中でしか体験できない思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう
（内容）
・コミュニケーションツール「Slack」を活用し、市民が自ら生活・観光情報を発信し、それによって市民同士がつながる仕組みをつくる。
・福知山市のことを発信したくなる気持ちを育てたいので、PR 方法を考えていた。大江町の元伊勢など広報ができていないため、福知山に来た人が知らないことがある。
・また、夜久野町の額田のまつりの時は、都会に出た人が戻ってくるが、それも知られていない。
・そのようなことを伝えるために SNS の利用を考えているが、ご高齢の方は発信の仕方が分からないため、学生を巻き込んだ発信をしていきたい。

2 班
【提案⑫】福知山市の魅力、強みを生かして、儲かる観光業、農林畜産業をめざして盛り上げよう。
（内容）
・福知山市の魅力を発信できていないと感じる。観光業においてはターゲットを明確にできていないことや市民が良いと思う場所等を発信ができていないこと、また農林畜産業においては販売先がないこと等が課題であり、外に儲かる環境を探す必要がある。

・提案の実現に向け市民が参画する方法として、市民が、自分達が行って良かった場所や食べた物などを発信する仕組みや、異業種同士が1つとなり発信できる場づくりが必要となる。
・取組や話し合いの場（輪）には、既に積極的に活動されている事業者や市民に加え、商売のリーダーやオピニオンリーダーが必要で、最終的に若者、移住者、居住している外国人等も巻き込んでいくことで輪をさらに広げていくことができる。
・今後、どのように話し合いの場（輪）を設け、どのような取組ができるのか、より具体的に検討していく。

3 班

【提案⑭】担い手が少なくなってきた時代に対応し、自治会などの活動を見直し、開かれた運営を行っていこう

【提案⑮】「やらなければならない」地域活動から「やりたい人がやりたいことをやる」地域活動へ変えていこう

（内容）

・単独の自治会で事業を行うだけでなく複数自治会で連携する取組の検討を行う。
・高齢化や人が減ることによって、自治会の運営が難しくなっていることから、これからは自治会同士の連携によって、自治会機能の維持を図る必要があると考えている。
・自治会で最低限やらなければならないことは、安心安全を守る取組だと改めて考えた。
・福知山市の場合は災害が多いこと、子どもや高齢者の声掛けや普段の見守りにもつながることから防災を核とした取組に見直してはどうかと考える。
・災害が多い地域と少ない地域で温度差もあるが、防災に取組むと普段から地域でどんな人が住んでいるのかを把握する必要があり、地域で顔が見える環境を作る必要があるため、日常の見守り活動にもつながっていく。
・福知山は防災で先進的な取組をしている地域もあり、防災のモデル都市として、地域の歴史も含めて全国に PR もできるのではないか。

4 班

【提案⑳】一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援をできる体制を、地域包括支援センターを中心につくろう

（内容）

・地域包括支援センターの知名度が低いことから、難しいのではないかと思ったが、まずは認知度を高めるために、チラシ等の媒体を使って地域に広める。
・介護、障害等複合的な課題を抱えた人が増えてきており、地域の人達のつながりから地域包括支援センターにつなぐことが大切であり、民生委員だけでなく、知り合いや近隣の人が知らせることができるようになることが理想。
・8050 問題等の気軽に話し合い、年齢を問わずに誰でも集まれる居場所をつくっていきたい。

5 班

【提案㉑】独居高齢者、老々介護、介護離職など、様々な介護の事情や社会生活環境の変化をふまえ、担い手の多様化と地域での支え合いの仕組みをつくろう

（内容）

・高齢化社会による介護人材や民生委員さんが不足しており、団塊の世代が75歳以上になってきている。
・地域の中で顔見知りになることが大切。お互い知っていると、相談でき、様々なアドバイスを住民同士で行うことができる。住民同士でアドバイスができる環境や楽しく集える場・機会を作ることができないかと考えた。
・そのためには、やらされている感をださず、自分から進んでできること、楽しんでできることが大切であり、住民全体が担い手の意識があることで自然と地域全体での支えあいにつながる。
・例えば、サロンの中でみんながやりたいことをやっていく。人の為にではなく、自分が楽しいことをやっていくことで住民全体がやりたくなるという気持ちにつながっていく。
・参加者の属性、地域特性に応じた具体的な手法について今後検討していくが、男性が少ないこと等に課題を感じている。

別班

市民の参画の状況把握及び改善をすすめよう

（内容）

・多くの市民、そして市議会及び市の執行機関が、自治基本条例を理解しているまちを目指す。
・そのために、自治基本条例推進委員会の目的について整理して提案する。
・また、市民に周知するための戦略について、世代ごとのアプローチ方法について検討する。
・例えば、10代の高校生には社会へ出る前に深く理解してもらう機会、20代は条例を理解し活かせること、同世代のネットワークの構築も図れるように二十歳を祝う会を活用した啓発の機会、30代はそもそも集まる機会が少ないので三十路の会を作って条例を実践できる機会を作ってはどうかと考えている。